

株主通信

〈第59期〉

平成25年7月1日から
平成26年6月30日まで

人と自然に調和する環境を創造する



株式
会社

武井工業所

株主の皆様へ

To our shareholders



平素は格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。
さて、このたび当社第59期（平成25年7月1日から平成26年6月30日まで）が終了いたしましたので、ここに事業の概況と決算の状況につきましてご報告申し上げます。

株主の皆様におかれましては、何卒今後ともより一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成26年9月

代表取締役社長 武井 厚

事業の概況

Business review

当事業年度におけるわが国経済は、消費税率の引き上げに伴う個人消費の落ち込みが一部みられたものの、政府・日銀による経済対策や金融緩和を背景とした企業収益・雇用環境の改善がみられるなど緩やかな回復基調が続いております。

当社の属する建設業界におきましては、復興・防災の推進に向けた関連予算の実施による公共投資の増勢

が続き、また民間投資も堅調に推移いたしました。建設労働者不足による労務費の高騰等が採算に影響を与えるなど、収支面では厳しい状況が続いております。

このような経営環境のなか当社は、労働者不足等建設業界の今日的課題に資するプレキャストコンクリート製品の販売を推進することや、既存オリジナル製品の製造販売に全社を挙げて注力してまいりましたことから、自社製品の売上が増加いたしました。また政府の経済対策により発生した一般的な土木工事用製品の需要に対しては、その一部を同業他社からの仕入を増加させることで対応したため、商品区分の売上も大幅に増加いたしました。一方で、製品コスト及び販売管理費の縮減にも一層取り組みを強化してまいりました。

この結果、売上高は4,999百万円（対前期比7.7%増）、となりました。利益面では営業利益302百万円（対前期比21.3%増）、経常利益274百万円（対前期比28.5%増）、当期純利益は247百万円（対前期比33.2%増）となりました。

次期の見通しにつきましては、需要は堅調に推移するものとみられますが、原材料費・燃料費等あらゆるコストが上昇していることから、利益については相当保守的に見積もる必要があります。

以上の事業環境を踏まえた次期の見通しは、売上高4,900百万円、経常利益204百万円、純利益は126百万円を見込んでおります。

栃木県下野市 一般県道下野壬生線

製品：フリードレーン都市型



一般県道下野壬生線は、栃木県の旧下都賀郡石橋町と国分寺町の市街地を結ぶバイパス道です。下野市の南北を連絡する地域の生活を支える主要な道路であり、国道4号を補完する道路でもあります。これまで下野市の南北交通は国道4号に集中し、慢性的に渋滞が発生していました。そこで国道4号の渋滞緩和と地域連携の強化を目的に平成18年度にバイパス事業に着手し、整備がほぼ完了し開通する運びとなりました。この後は、さらに下野市の新庁舎（平成28年度に完成予定）までの2.1km区間についての整備が計画されています。以下、本工事の概要となります。

- ・ 路線名 : 一般県道下野壬生線
- ・ 延長 : L=1.5km
- ・ 道路幅員 : 17.0m (車道3.25m×2 歩道3.75m×2)
- ・ 事業期間 : 平成18年度～平成25年度
- ・ 事業費 : 約16億円

この道路には、フリードレーン都市型をご採用いただきました。道路延長1.5kmに対し、両側の3.0km分となります。この製品は道路の雨水排水処理を行う函渠型の側溝となります。車道と歩道を分けるための境界ブロックを本体上部に載せるタイプで、地表に現れる部分は集水及びメンテナンスのための最少幅とすることにより、幅の広い道路から市街地の比較的狭い道路にも適用できる優れた製品です。フリードレーンシリーズは販売開始から14年が過ぎ、益々ご好評を得ております。



フリードレーン都市型



フリードレーン都市型グレーチング付

茨城県潮来市 日の出地区

製品：鉄筋コンクリートU形・長尺U字溝



潮来市日の出地区は、茨城県のなかでも東日本大震災による地盤の液状化で特に甚大な被害を受けた地域です。道路は陥没し建物も沈下や斜めに傾いてしまうなど、目を覆うような光景でした。3年を経過した現在でもその爪痕は随所にみられ、懸命な復興・復旧の工事が続いています。

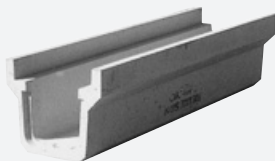
まず、震災による液状化の再発防止策としては「地下水位低下工法」が行われています。同工法は地下水を汲み上げて、地下約1mに位置する地下水を3mまで下げます。これにより地下水よりも低い地盤は液状化し易い状態が残るものの、地下水位を下げれば表層側の非液状化層が厚くなり、地表面への液状化の影響を抑えられるというものです。このため幹線道路ではその地下に排水路として縦2.0m×横2.2mと人が余裕で入れる大型で矩形の函が埋設され、さらにその両側には特殊な配水管が設けられるなど徹底した対策が行われています。

一方、幹線道路以外では傷んでしまった道路や雨水排水処理を行うために基本的な側溝の設置が進められています。当社では、鉄筋コンクリートU形・長尺U字溝などスタンダード品の供給が続いています。これらは日本工業規格品や茨城県規格品であり、それぞれが共に息の長い商品です。とてもシンプルな構造で汎用性が高く、しかも安価であり、公共工事や民間工事には欠かすことができません。

日の出地区にお住まいの皆様にも一日でも早く笑顔が戻ることをお祈りするとともに、当社ができることは何かを常に考え、これからもお役に立てるよう努力してまいります。



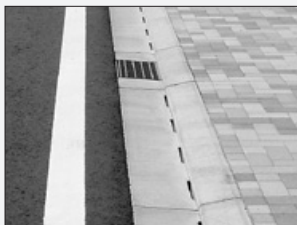
鉄筋コンクリートU形



長尺U字溝

茨城県神栖市 神栖中央公園

製品：フリードレーン都市型ADタイプ



神栖中央公園が平成26年6月に開園しました。ここでは、市が国から払い下げを受けた土木研究所跡地で、市の中心部に位置し平成22年度より整備が進められてきました。全体で約19ヘクタールもの広大な面積となります。

普段は、様々な樹木が四季を彩り、広大な芝生広場に大型遊具や噴水広場など、ふれあいや憩いの場として子供からお年寄りまで楽しめる場所となっています。また一方で、非常時には標高10m以上の場所に約1,500人の避難が可能となっているつき山（ふれあいの丘）・備蓄倉庫・飲料水を確保する耐震性貯水槽・手押し式井戸・防災トイレ・カマドベンチ・災害時にテントを設置できる休憩施設・ヘリポートなどを備えた地域の防災拠点へと変わります。

この公園には当社の函渠型側溝のフリードレーン都市型ADタイプをご採用いただきました。通常、道路と歩道は歩行者保護のため境界ブロックで分離をし、車両乗り入れ箇所のみに限ってこのタイプを使用します。しかし、ここでは避難時にどの場所からも車両が容易に進入できるように、一部を除きあえて全ての箇所にこの製品を配置しました。

神栖中央公園は今後も防災アリーナや警察署の建設が予定されております。施設・設備も益々充実し、市民のための安らぎと安全・安心の公園となっていきます。



フリードレーン都市型ADタイプ

茨城県那珂郡東海村 久慈川下流管内補修工事

製品：VS側溝



この場所は、福島県及び茨城県を流れる一級河川の久慈川（くじがわ）河口にほど近い場所です。3年前の東日本大震災により、河川の堤

体が大きく沈下してしまいました。このため嵩上げ工事を行う必要に迫られていました。しかし、この場所は河口に近いこともあり潮位の差が大きく、現場での型組作業等に問題がありました。

そこで白羽の矢が立ったのが、道路の雨水排水に使用するVS側溝です。上部の梁と高さを選定できる左右のたて壁とからなる構造で、底部を現場打ちにて形成する形状となります。今回、ご採用いただきました一番の理由がこの特殊な形状です。この製品を沈下した堤体の河川側に配置し、壁とすることにより、問題となっていた現場での型組作業が不要となりました。発想の転換で全く新しい用途を見いだされた、とても面白い使用例です。

工事は3箇所に分かれており、この内の2箇所が完了しております。施工延長は最終合計で550m程度となる予定です。



VS側溝

岡山県岡山市 岩田町大学町線 土系舗装工事 製品：ジオベスト（土舗装固化材）



今回の施工場所となる岡山市は中国地方の南東部、岡山県の南東部に位置する政令指定都市で、同県の県庁所在地となります。ジオベストは、同市の岡山駅から東に500mほど離れた西川緑道公園筋（旧西川筋）の愛称で呼ばれている西川沿いにご採用いただきました。

この地区は景観形成重点地区となっており、建物や構造物は街並みに調和し洗練された落ち着いた外観の形態としなければならず、構造物の形態・意匠・壁面の位置の制限・素材・緑化など様々な制限が設けられています。このため、市街地でありながら他とは別世界のような緑のある落ち着いた外観となっています。

写真の場所は以前味気の無い一般的なアスファルト舗装でしたが、現在ではジオベストを用い土舗装の歩道を設けたことで木々の緑や水面と調和したより一層優しい感じの道に仕上がりました。

施工区間は川を挟んだ約200mの両側で、総面積750㎡（ジオベスト20kg/袋で440袋分）となります。なお、この付近では以前セメント系（アルカリ性）の土固化材が用いられ工事が行われていましたが、今回は中性で自然に優しいジオベストが選ばれました。



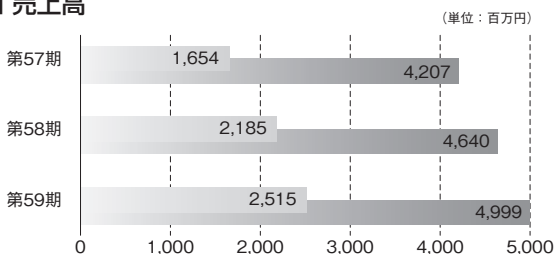
財務ハイライト

Financial highlights

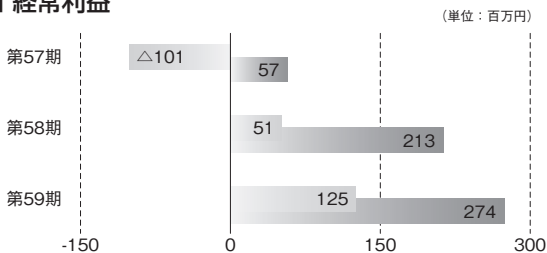
中間

通期

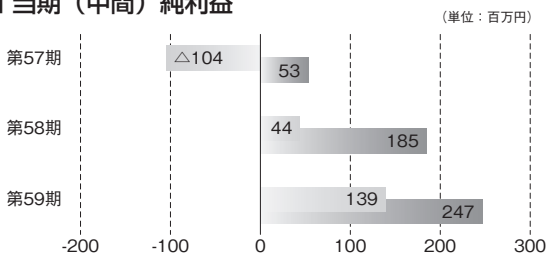
売上高



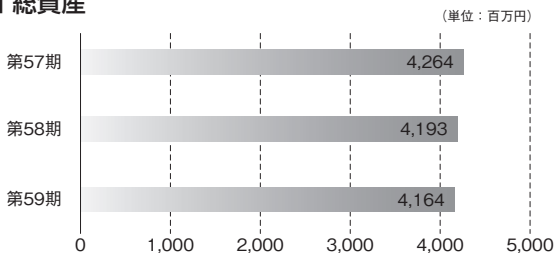
経常利益



当期（中間）純利益



総資産



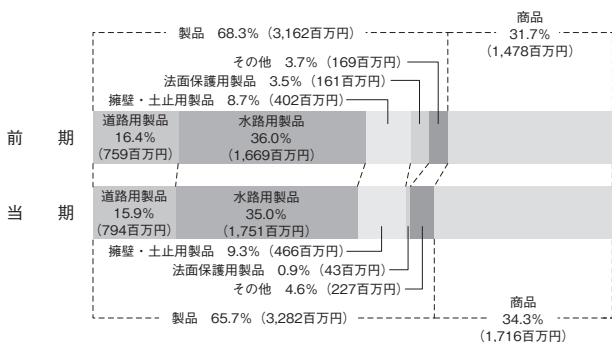
Information

■部門別の状況

第59期における自社製品の売上は、3,282百万円（前期比120百万円増）となりました。内訳としては政府主導による景気刺激策の公共事業発注増加や消費税値上げの宅造需要により、道路用製品で794百万円（前期比35百万円増）、水路用製品で1,751百万円（前期比81百万円増）、擁壁・土止用製品で466百万円（前期比64百万円増）となっております。法面保護用製品につきましては、震災復興需要の収束に伴い前期比117百万円の減少となっております。

商品売上は、自社オリジナル製品の製造を優先したため、汎用製品は仕入対応としたことにより1,716百万円（前期比238百万円増）となりました。

第60期につきましては、計画的な生産を実施し、汎用製品を自社で製造するとともに、当社の主力製品であるフリードレーンや区画割りブロックの新製品「シキール」を積極的に営業展開し、圏央道や2019年に開催が決定した茨城国体、さらに2020年に開催される東京オリンピックの需要を取り組みながら受注確保に努めてまいります。



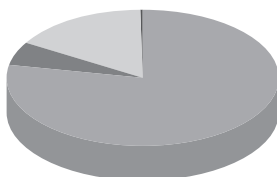
■第三次中期経営計画の進捗（第59期～第61期）

目標とする経営指標

	目標値(平成28年6月期)	平成25年6月期	平成26年6月期
総合指標：ROA	7%以上	5.1%	6.6%
財務安定性指標：自己資本比率 有利子負債	35%以上	28.0%	34.0%
	1,400百万円以下	2,141百万円	1,833百万円
収益性指標：経常利益率	6%以上	4.6%	5.5%

■株式の状況 (平成26年6月30日現在)

- (1)発行可能株式総数 12,000,000株
 (2)発行済株式の総数 3,542,000株
 (3)株主数 516名
 (4)株主の所有者別状況



- 個人
- 金融機関
- 一般法人
- 自己名義株式

(5)大株主

株主名	当社への出資比率	
	持株数	持株比率
武井 泉	375,750株	10.62%
武井 昭	354,750株	10.03%
武井 勇	340,520株	9.62%
太平洋セメント(株)	242,000株	6.84%
武井 厚	202,000株	5.71%
武井 恒	184,000株	5.20%
武井 洋	183,000株	5.17%
(株)双葉商会	157,000株	4.43%
武井工業所従業員持株会	113,000株	3.19%
(株)常陽銀行	100,000株	2.82%

※持株比率は自己株式5,344株を控除して計算しております。

■株価の推移 (第59期下半期)

(単位：円)

年月	H26.1	H26.2	H26.3	H26.4	H26.5	H26.6
最高	200	-	200	-	200	200
最低	200	-	200	-	200	200
出来高(株)	3,000	-	2,000	-	2,000	3,000

※弊社の株価の確認については、弊社ホームページ<http://www.takei21.co.jp>または、EVOLUTION JAPAN証券株式会社ホームページ<http://www.evofinancialgroup.com/ejs/commodity/greensheet.html>をご参照下さい。

※弊社の株式を売買される場合は、EVOLUTION JAPAN証券株式会社に口座をご開設下さい。

お問い合わせ先 03-5485-5600 (受付時間9:00~17:00)

■株主還元について

(1)配当金について

当社は、今後の事業展開に対応した財務体質の強化のために必要な内部留保の充実を図りつつ、株主の皆様様に業績に裏付けられた安定的な配当の継続を方針としております。

(2)株主優待制度について

毎年6月30日最終の株主名簿に記載または記録された株主の皆様に対し、日本穀物検定協会「お米の食味ランキング」でランクの「A」を獲得しました茨城県北部産のお米を、さらに厳選したコシヒカリ「天恵米(5kg)」を贈呈いたします。発送の時期は作況にもよりますが、毎年10月上旬から中旬を予定しております。

貸借対照表

(平成26年6月30日現在)

Balance sheets

(単位：千円)

科 目	金 額	科 目	金 額
資産の部		負債の部	
流動資産	1,713,095	流動負債	1,950,241
現金預金	276,514	支払手形	168,799
受取手形	225,311	買掛金	220,352
売掛金	540,336	短期借入金	930,000
商品	23,796	1年内返済予定の長期借入金	295,242
製品	540,981	未払金	188,965
原材料	48,810	リース債務	31,021
貯蔵品	26,130	未払法人税等	59,604
前払費用	14,936	未払消費税等	12,919
繰延税金資産	18,568	賞与引当金	26,500
その他	4,264	預り金	13,606
貸倒引当金	△6,553	その他	3,230
固定資産	2,451,685	固定負債	800,024
有形固定資産	2,315,689	長期借入金	608,576
建物	303,999	退職給付引当金	109,177
構築物	129,170	リース債務	74,067
機械装置	93,868	資産除去債務	8,204
車輛運搬具	246	負債合計	2,750,266
工具器具備品	84,289		
土地	1,605,433	純資産の部	
リース資産	98,682	株主資本	1,409,675
無形固定資産	4,872	資本金	522,323
実用新案権	300	資本剰余金	389,632
電話加入権	4,572	資本準備金	389,632
投資その他の資産	131,124	利益剰余金	498,832
投資有価証券	21,456	その他利益剰余金	498,832
関係会社株式	10,250	固定資産圧縮積立金	6,653
出資金	12,010	繰越利益剰余金	492,179
会員権	39,744	自己株式	△1,112
保険積立金	54,210	評価・換算差額等	4,839
破産更生債権等	163,930	その他有価証券評価差額金	4,839
繰延税金資産	4,215	純資産合計	1,414,515
その他	16,202		
貸倒引当金	△190,894	負債・純資産合計	4,164,781
資産合計	4,164,781		

(注) 1. 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

- | | |
|-------------------|-------------|
| 2. 有形固定資産の減価償却累計額 | 4,949,457千円 |
| 3. 担保に供している資産 | 1,732,139千円 |
| 4. 受取手形裏書譲渡高 | 483,335千円 |
| 5. 受取手形割引高 | 22,785千円 |

損益計算書

(平成25年7月1日から平成26年6月30日まで)

Statements of income

(単位：千円)

科 目	金 額
売上高	4,999,624
売上原価	3,662,738
売上総利益	1,336,885
販売費及び一般管理費	1,034,346
営業利益	302,539
営業外収益	16,076
受取利息及び配当金	427
貸倒引当金戻入額	3,358
その他営業外収益	12,290
営業外費用	44,518
支払利息	44,032
その他営業外費用	485
経常利益	274,097
特別利益	14,641
保険差益	14,641
特別損失	1,484
固定資産除却損	1,484
税引前当期純利益	287,254
法人税、住民税及び事業税	65,473
法人税等調整額	△25,605
当期純利益	247,386

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

株主資本等変動計算書

(平成25年7月1日から平成26年6月30日まで)

Statements of changes in net asset

(単位：千円)

	株主資本						株主資本 合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		自己株式	
		資本 準備金	その他利益剰余金		利益 剰余金 合計		
			固定資産 圧縮 積立金	繰越利益 剰余金			
平成25年7月1日残高	522,323	389,632	—	260,288	260,288	△1,112	1,171,131
事業年度中の変動額							
剰余金の配当	—	—	—	△8,841	△8,841	—	△8,841
当期純利益	—	—	—	247,386	247,386	—	247,386
固定資産圧縮積立金の積立	—	—	6,653	△6,653	—	—	—
株主資本以外の項目の事業 年度中の変動額（純額）	—	—	—	—	—	—	—
事業年度中の変動額合計	—	—	6,653	231,890	238,544	—	238,544
平成26年6月30日残高	522,323	389,632	6,653	492,179	498,832	△1,112	1,409,675

	評価・換算差額等		純資産 合計
	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
平成25年7月1日残高	4,251	4,251	1,175,382
事業年度中の変動額			
剰余金の配当	—	—	△8,841
当期純利益	—	—	247,386
固定資産圧縮積立金の積立	—	—	—
株主資本以外の項目の事業 年度中の変動額（純額）	588	588	588
事業年度中の変動額合計	588	588	239,132
平成26年6月30日残高	4,839	4,839	1,414,515

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

役員

(平成26年9月26日現在)

Board of directors and auditors

代表取締役社長	武井	厚
常務取締役管理本部長	大内 哲	朗
取締役製造本部長	金澤	隆
取締役営業本部長	岡本	仁
常勤監査役	鷹啄 英	昭
監査役	山根	節
監査役	古川 史	高
執行役員営業副本部長	萩原 秋	生

(注) 監査役 山根節、古川史高は、社外監査役であります。

会社の概要

(平成26年6月30日現在)

Company information

商創設資本	号業立金	株式会社 武井工業所	
		昭和14年7月	
		昭和31年4月	
		522,323,400円	
		発行可能株式総数	12,000,000株
		発行済株式総数	3,542,000株

事業所等	本社工場	茨城県石岡市若松一丁目3番26号
		明野工場(茨城県筑西市)
		小川工場(茨城県小美玉市)
		岩瀬工場(茨城県桜川市)
		栃木工場(栃木県下野市)
営業所		東関東営業部広域営業課(本社内)
		〃 茨城営業所 水戸営業所(本社内)
		〃 〃 つくば営業所(本社内)
		〃 〃 鹿行営業所(茨城県小美玉市)
		西関東営業部広域営業課(栃木県下野市)
		〃 栃木営業課()

従業員数 224名(男 198名、女 26名)

株主メモ

Note for shareholders

事業年度 7月1日～翌年6月30日

定時株主総会 毎年9月中

配当金受領株主確定日 1. 6月30日
2. 中間配当を実施する場合は
12月31日

単元株式数 1,000株

株主名簿管理人及び
特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社

(お問合せ先)
(郵便物送付先) 〒137-8081
東京都江東区東砂七丁目10番11号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
電話 0120-232-711 (通話料無料)

公告の方法 電子公告
(やむを得ない事由がある場合は日本経済新聞
に掲載して行います)

U R L <http://www.takei21.co.jp/>

(注)

1. この株主通信は、第59期の事業の概況等をお知らせするものであり、株主総会の招集、配当金のお支払い等とはございません。
2. 株券電子化に伴い、株主様の各種お手続きは、原則として口座を開設されている証券会社経由で行っていただくこととなります。なお、未受領の配当金のお支払いにつきましては、引き続き株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行の本支店でお支払いいたします。
3. 特別口座に記録された株式に関するお手続き用紙（届出住所等の変更届、配当金振込指定書、単元未満株式買取請求書）等のご請求につきましては下記の三菱UFJ信託銀行の電話並びにインターネットにより24時間受付けております。
電話（通話料無料） 0120-244-479（24時間受付：お手続き用紙ご請求専用）
インターネットアドレス <http://www.tr.mufg.jp/daikou/>



株式
会社

武井工業所

本社 〒315-0018
茨城県石岡市若松一丁目3番26号
電話 0299-24-5200(代表)
<http://www.takei21.co.jp/>

